

## 県内の介護・福祉分野の現状及び人材ニーズ

## 1 訪問調査状況

県内の主要福祉施設 6 施設（富山市 3、射水市 1、魚津市 1、上市町 1）

## 2 訪問結果（概要）

## （1）介護・福祉人材のニーズ、採用・充足状況について

- 団塊の世代が後期高齢者（75 才以上）となる 2025 年頃まで、介護人材のニーズは高まると予想される。
- 施設の拡大、職員の充実、離職者の発生等、様々な要因から人材ニーズは高い。
- 介護系人材は、その供給対策が行われているが、看護師は絶対的に不足。

## （2）採用に当たっての考え方

- 介護という特殊な職場（人との触れ合い、コミュニケーションの重要性）ゆえ、採用に際しては、資格の有無よりも、介護へのやる気や情熱を重視。中途半端な気持ちで就職すると、自分自身にとっても利用者（高齢者等）にとってもマイナス。

## （3）離職の実態とその要因

- 安易に介護職を目指す離職者が多く、介護への理解不足が現実とのギャップから離職につながる傾向がある。
- 低賃金による離職は、H21 から 3 年間の期限で実施されている処遇改善交付金が奏功し減少。しかし、施設間の処遇格差があり、また、交付金を給与以外に活用している施設の実態もあり、相対的に給与水準が低い施設は、依然として離職者が多い。

## 【介護職員処遇改善交付金】

一定のキャリアパス要件を満たした事業者に対し、介護職員の賃金改善に充当するための交付金を支給する制度（平成 21～23 年度の暫定措置）

※ 暫定措置終了後は、介護・医療報酬改定に反映されるとの見方もあるが、現時点で不透明

## （4）介護・福祉の人材育成に係る要望

- 介護福祉士は 2 年間の教育の中に十分な施設実習を取り入れており、意識・知識・技術ともに必要な資質が備わっている。
- ホームヘルパー 2 級の 3 か月研修では、施設見学程度であり、もっと実地研修を充実させるほうが効果的。介護現場の理解と意識の向上にもつながる。
- 介護現場の認識を得る点では、介護基礎研修（6 か月研修）の方が効果的ともいえる。
- 他業種からの転職者には、コミュニケーション能力に課題を有する人が多く、また、前職のプライドが業務の支障となる人が多い。また、日々の業務の中で利用者の状況に応じた柔軟な対応も求められる。人材育成にあたっては、新たな気持ちで介護に臨むという意識の醸成に加え、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力等に係る研修も必要。

## 【参考—現行の介護系人材の職種等】

- a. ケアマネジャー（介護支援専門員）：①10 年以上の実務経験＋試験、② b + 実務経験 5 年以上＋試験
- b. 介護福祉士：①1,800 時間（2 年間）の研修、②実務経験 3 年以上＋試験、③福祉系高校卒
- c. 介護職員基礎研修：①500 時間の研修、② d + 実務経験 1 年以上＋150 時間の研修
- d. ホームヘルパー（2 級）：130 時間の研修

## （5）その他

特養は、今後一層、要介護度の高い利用者の施設となり、終の棲家となる傾向がある。介護職を目指そうとする人は、そのような状況も十分理解することが必要。